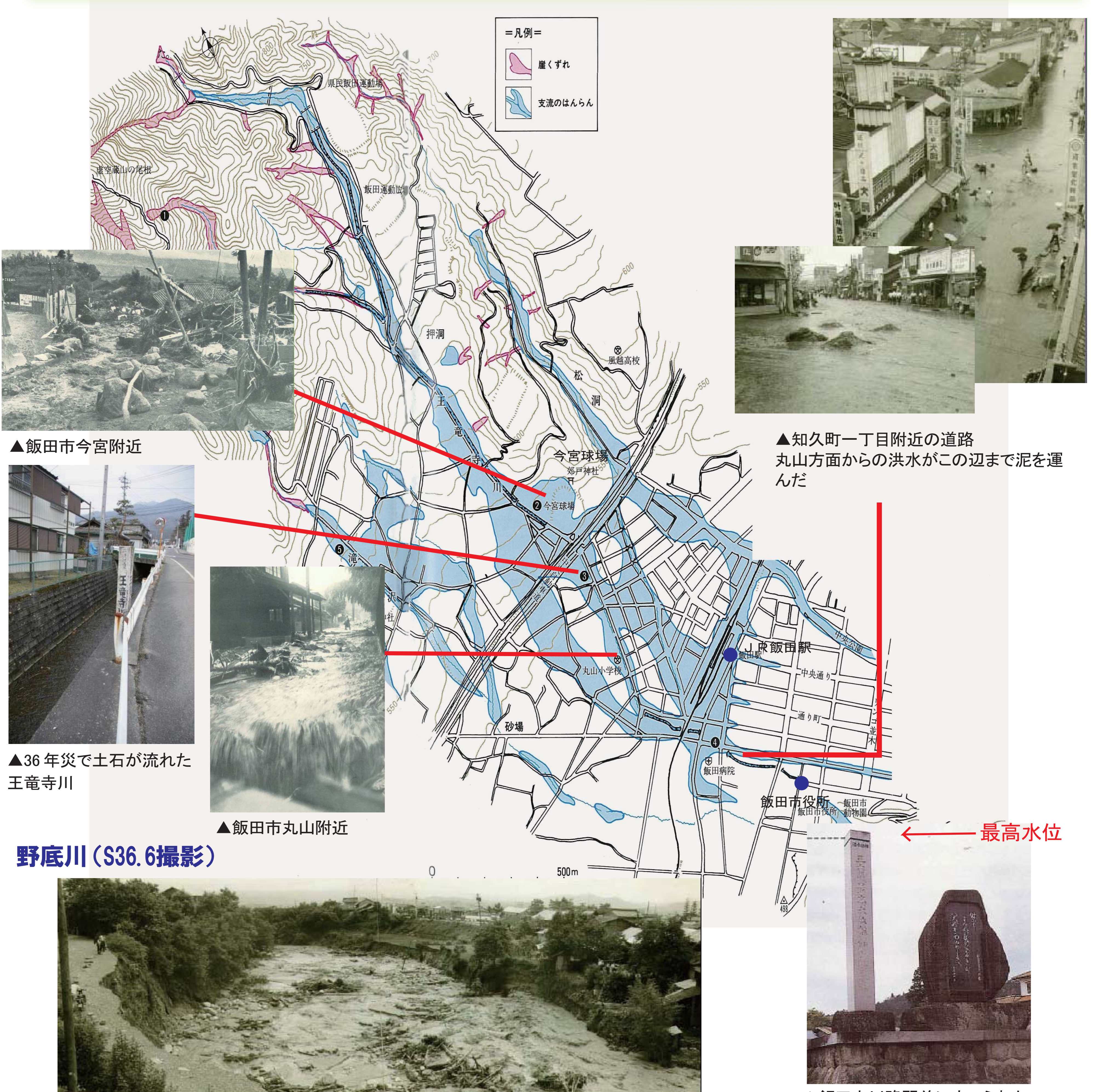


天竜川上流域の災害の歴史

●三六災害

1961(昭和36)年6月、台風の接近と梅雨前線の停滞により、伊那谷では1週間で年間平均雨量の3割を超える豪雨(飯田観測所:総雨量579mm)を記録、各地で土砂災害が発生しました。

ふり始めからの総雨量が500mmをこえた飯田市下伊那地方の山間部では土石流が多発、天竜川本流でも堤防が決壊して、人家や耕地をおそいました。死者・行方不明者130名の日本の土砂災害史上に残る大惨事となりました。



天竜川上流域の災害の歴史

●三六災害 ー飯田市地域の状況ー

○野底川一帯



▲ひつじ満水（1715年）の再来といわれる鉄砲水にヒン曲げられた野底橋

○市内各地



▲知久町三丁目の泥の道



▲知久町商店街の浸水の様子



▲東中央通り方面の洪水のあと

○松尾



▲弁天橋に激突する天竜の濁流、対岸は下久堅

○川路



▲濁流に孤立した川路小中学校

○伊賀良



▲伊賀良北方大瀬木部落の様子

「本当のことと思えないできごと」
飯田市伊賀良小学校 六年 桜井千代子
（前略）家の方をみると、洋服だんすや、たたみ
ものが流れていく。おにいさんは、「ああ、みんな
家のものが、流れていく。」と言って、はん分ない
ていた。水は、家の方と、たけやぶの所を流れて
いた。
（中略）それから、おかあさんは、向こうの、とな
りのかじゆえんへいこうとしたら、もう水は、そ
こまでできておって、足をさらわれて、おかあさん
も流れて行った。うんがよく、長平さんのほうへ
流れて行ったもんでよかった。もし、ほんりゆう
の方へ行けば、とし子と二人で死んでいた。流れ
て行く時は、おかあちゃんは、いきたこちはな
かった。だけど、「命だけ助かってよかった。」と言
っていた。（後略）

『続・濁流の子』より



笑顔、きらきら、天竜川。

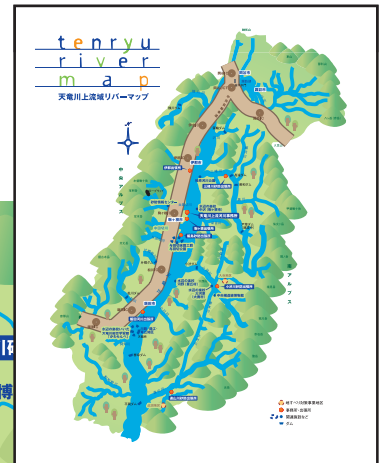
天竜川上流河川事務所

天竜川上流域の災害の歴史

●五八災害

1983（昭和58）年9月20日にグアム島の南で発生した台風10号により、本州南岸沿いに停滞していた秋雨前線が刺激され、天竜川上流域で9月27日から28日にかけて大雨になりました。総雨量は200～400mmにおよび、天竜川の流量は戦後最大を記録しました。下伊那地方の被害は、死者3人、負傷者12人、被災住家933棟におよび、三六災害と並ぶ大災害となりました。

旧上郷町の土砂災害 (飯田市上郷)



川路の洪水災害



▲飯田市川路天竜峡 床上浸水(天竜峡ホテル)

竜江の洪水災害



▲飯田市竜江御庵 S58.9.29 天竜川の氾濫により桑畑、水田浸水



▲飯田市川路天竜峡 S58.9.29 床上浸水

天竜川上流域の災害の歴史

●平成18年災害

2006(平成18)年7月15日から降り始めた雨は21日まで降り続き、各地に被害が続出しました。浸水面積は約558ha、被害家屋は、床上浸水1,076棟、床下浸水1,465棟の合わせて2,541棟にも及ぶ被害となりました。天竜川本川では、田畑等の浸水被害が12地区で発生し殿島橋が落橋した他、箕輪町松島地区で堤防が決壊するなど、飯田市から箕輪町まで広範囲に被害が及びました。

天竜川各地の被害状況

水位表示の区分

- ▲ 計画高水位以上 (河川整備の目標としている水位)
- ▲ 危険水位以上 (氾濫の恐れが生じる水位)
- ▲ 特別警戒水位以上 (住民等が避難する目安となる水位)
- ▲ 出動水位以上 (水防団等が出動する水位)
- ▲ 警戒水位 (水防団等が出動の準備をする水位)

伊那市 中央橋 (7/19)

箕輪町松島地区

岡谷市湊

赤羽中山

伊那市 殿島橋 (7/20)

高森町 カヌー親水公園 (7/19)

飯田市川路 かわらんべ前 (7/19)

(平常時)

天竜川の災害と教訓

伝えたい災害とお話 ～飯田～

●羽場崎 のりともさん(飯田市在住)

長年地域の水防活動に取り組んできた竜水開発組合長



「昭和36年災害・58災害」について

Q. 雨の降り方やまわりの状況はどんな様子でしたか？

ドーンと降ってそれからパッと止んじゃったみたいな形で本当に実際にここまで水についとったのは、2時間か3時間だったと思いますね。

Q. 災害に直面した時、どんな行動をしましたか？

「向こう三軒隣組」、それがやっぱり一番役にたつっていうか、「あそこのおばさんが来とらんじゃないか、まだ家にいるんじゃないか」と、そういう心配で水がついとも行ってきてみる。

Q. 災害を経験して、どんなことを思いましたか？

目の裏に焼きついとると、自然災害の恐ろしさというものを目の当たりにして、自然には勝てないと、なんとかこれから行政の面でも力を入れて守っていかなくちゃならないというようなことを強く感じた。

Q. 災害に強い地域への取り組みには、どんなことが必要ですか？

地域全体で雨の降り方、そういったものもある程度情報源を持っておるとのこと。



36 災害当時の伊賀良の様子(昭和36年6月)

●平沢 清さん(飯田市勤務)

36年災当時、飯田市下久堅に在住、H18年災では長野県職員として復旧に従事



「昭和36年災害」について

Q. 雨の降り方はどんな様子でしたか？

ほぼ1週間ぐらいシトシトシトと雨降りが続いた後、大きな雨がどつときた、という印象がありました。

Q. 天竜川はどんな様子でしたか？

天竜川沿いにあった工場の家が、水がついてくることによって浮きまして、徐々に本流の方へ導かれて、天竜川にかかっております水神橋に激突してこっぴみじんになるという状況を見て、「これは恐ろしい」という感覚をうけました。

Q. 天竜川やまわりの様子を見て、どんなことを思いましたか？

天竜川の中を大きな石が流れるなかで、石と石がぶつかって火花が散るとかですね、ゴトンゴトンというなんともいえない地響きをたてるような音とかですね、夜昼なしに恐ろしさを感じました。

Q. 災害後、どんな行動をしましたか？

泥出しですね、今でいうボランティアとして学校で先生ともども出かけました。水だけだったようなところについては、倒れた稲をあげることによって田んぼがなんとか復活するということで歩いた記憶がある。

Q. 災害を経験して、どんなことを思いましたか？

36災害を通じて、ああゆう災害が少しでも減らすことができたらという思いから、こういう職場に入ったかもしれないです。行政側だけでなく住民の皆さんも巻き込んだ、そういう意識をいかに持ち続けるのかが大事かという、今後やってかなきゃいけないな。



笑顔、きらきら、天竜川。

天竜川上流河川事務所

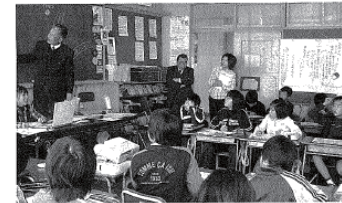
天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会

○天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会とは？

天竜川上流域には過去の災害にまつわる歴史資料、石碑・遺構、民間伝承が非常に多く残っています。しかし災害を経験したことにより得た教訓（知恵、知識）が十分に活かされていない現状があります。

そこで、災害に備えるための教訓をどのようにして後世に語りついでいくのかを考えるために信州大学人文学部の笹本教授を座長とし、大学や博物館の有識者、自治体や防災関係団体などのメンバーからなる委員会を設置しました。昨年度から2年間にわたり全4回の検討会を行っています。

今年度はいくつかの地域を対象に災害教訓を伝承するための取り組みを試行的に行っています。



伊那小で伝承試験開始
水害の体験談や歴史を鑑みながら伊那小5年級生に伝承

災害の教訓
親しみある川も一変
伊那小で伝承試験開始
伝承試験開始
伊那小で伝承試験開始
伊那小で伝承試験開始

伝承実施状況を伝える記事
H20.12.20 長野日報

○災害教訓伝承手法検討会の様子を伝える新聞

災害教訓伝承へ「手引きと実例」

天竜川上流域手法検討会 成果まとめ公開

伝承手法のツールとして作成した「おはなしマップ」

H21.3.4 長野日報

水害教訓講座やウォーキング モデル地域で実践へ

検討会

H20.10.1 長野日報

○お願い

「災害教訓伝承手法検討会」では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集、整理して地域防災力の向上に役立てる試みを行っております。ご自宅で保管されているような貴重な資料がありましたら下記連絡先までお知らせ下さい。

〈連絡先〉国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
担当：調査課（電話番号：0265-81-6415）